748
2

# 海上に於ける英國

日本国際協会編

*0057676000*

0057676-000

７４８－２

海上に於ける英国

ヘクター・シー・バイウオーター・著

日本国際協会

昭１３

AJG

748
2

# ヘクター・シー・バイウオーター

## 海上に於ける英國

昭和十三年二月

日本國際協會

納本有新

748
2

# 海上に於ける英國

ヘクター・シー・バイウオーター

（譯者註）

米誌「フオーレン・アフエヤーズ」一月號に掲載された論文の假譯である。支那事變のあふりを受けて軍備問題が再び世界の流行兒となつてゐるときだけに、（ネーヴイース・アンド・ネーションズの著者として有名な）バイウオーターの目が、この日本を、極東を凝く睨んで居るのを見逃せない。

昭和十三年二月

## 海上に於ける英國

ヘクター・シー・バイウオーター

英國外相イーデン氏は九月二十日ジュネーヴに於て演說して次のごとく述べた。

「帝國海軍を事實上構成してゐる主力艦型の總噸數は現在四十五萬噸を超過してゐる。私はこの數字のなかに、今年すでに進水したもの及び議會が承認を與へ、更に近く所有さるべき五萬五千噸を計算して居らない。一部だけ完成し、或は目下英國內に於て現に建造中に屬する最後の三海軍計畫の總費用は一億三千萬磅に相當してゐる。また海軍兵員は平時に於て帝國として前代未聞の割合を以て增員されつゝある」

これらの數字は人目を惹くものではあるが、それでも尙ほ英國がその海上勢力を回復し、さらにこれを鞏固にするため現に拂ひつゝある異常

な努力を十分に示してゐるものではない。一九三七年海軍豫算案のなかに示されてゐる表によれば、本會計年度に於て起工中の主力艦及び補助艦艇は次の如くである。

| | |
|---|---|
| 戰艦 | 五 |
| 巡洋艦 | 二一 |
| 航空母艦 | 五 |
| 驅逐艦 | 四九 |
| 潛水艦 | 一九 |
| 補給艦 | 三 |
| 護衛艇、水雷掃除艇、警戒艇 | 二四 |
| 砲艦 | 三 |
| 自動水雷發射艇 | 一七 |
| 測量艇 | 二 |
| 合計 | 一四八 |

これで全部を云ひ盡したわけではない。來る三月に新計畫が議會に上程されるはずである。その内容はまだ公式に發表されて居らぬが、消息通筋では、新計畫中には三隻乃至五隻の戰艦、七隻の巡洋艦、かなりの數の驅逐艦、潜水艦及びその他の小艦艇が含まれて居るものと信じられてゐる。過去數年間に九萬八千名から十一萬二千名に飛躍した海軍兵員は將兵合せて概略十二萬五千名に增員されることになるだらう。

この龐大な海軍再軍備計畫の目的は何であるか？故意に眼を閉いでゐる者か、或は獨逸諸國からの宣傳の虜となつてゐるものを除き、すべての外國の觀察者には、この計畫は防禦上の諸理由のために樹立されたものでなくて、決して侵略のためのものでないことは自明である。併しながらどんな軍備計畫であつても、その背後に一定の戰略的目的が存在する筈であるし、また存在しなければならない。この事は諒解し得られないやうなむづかしい問題ではない。ホーア海相が今年度の海軍豫算を提

出したとき、「兩半球艦隊」ー two hemisphere fleet ーを目標としてゐると云つた。それは歐洲の海上に於てと同時に極東に於ても、英國は自身の立場を確保し得られるやうに強大にならんと欲するといふ意味に外ならないのである。世界に於ける現在の勢力均衡を考へると、これは大それた註文ではあるが、大英帝國を存續させようと欲すれば、是非とも實現しなければならぬものである。

英國にとつてまづ想定危險地帶と云へば、北海、地中海及び西太平洋である。これらの地帶は、一般的な緩靜運動がたい場合には常に細心の警戒を要するのである。英國の國防問題をどんなに單純化したかは、今更ら云ふまでもないことである。北方の海上に於ける不安から免れると、英國はその交通線を防衛するために地中海に十分の勢力を集中し得ると共に、他方、極東にも強力な艦隊勢力に對抗するだけの一定限度の武力を保持し得られるのである。けれども一体こんなに都合

のよい狀態が起るものかどうかは、その當座になつて見なければ判らない。ベルリン・ローマ樞軸が、その二人の技師にとつてかからぬ價値を有するのは、一方が他方の肩替りをするやうに、相互の海軍を牽制の具に供し得る點にある。英國は現在の計畫を完成したのちと雖も、北海及び地中海にその壓倒的勢力を一時に、そして同時にこれを集結させることは殆んど出來ない。よしそれが出來たとしても、大平洋に於て英國は全く無防禦の狀態におかれるに違ひない。この反面に於て英國が獨力でもつて敎國の聯合勢力と戰ふやうな事態は殆んど考へ得られない。現在の國際的對立に於て英國がその支持を豫定してもよい國々は、地中海及び極東に於て干渉するに絶好の地位に立つてゐるのである。

思慮のある英國人は斯うした國際對立狀態に滿足してゐるのではないが、事實の前には已むを得ないのである。差當り英、佛及びソは次の世界大戰の場合に獨、伊及び日本に對抗して共同の防衛行動に出るやうな

事態を念頭におかざるを得ない。それから二大國の參加した地方的戰爭が、必然に世界的戰爭に發展するといふことは、政治問題の研究者の殆んど完全に一致してゐる點である。よつてこれらの相對立する三國づゝの國家ブロックが衝突した場合に起るべき戰略的地位を以下に於て考察して見ることにしよう。

英國は洋上に於てドイツ海軍を拔かりなく扱ひながら、同時に有力な別働艦隊を地中海に派遣し得られるだけの強力な海軍力を持つてゐる。斯くして英國の援助をうければフランス海軍はイタリーと一か八か決濟を附けるだけの十分の能力を保持してゐるはずである。イタリーの海軍力は速力の早い輕水上艦艇とか潛水艦とか、又は飛行機とか、主として武器に傾注して居るが、これらは軍略的に或は作戰上うまく調和案配させることが困難であるから、紙上で見るよりも案外怖るべきものでないことが實證されるだらう。ローマからいろいろと雄辯に放送されるが、

イタリーの軍事的地位が劣等であるといふ事實を隠すことは出來ない。イタリーがアビシニアを確保せんとするには、その前提條件としてスエズ運河を無制限に利用し得なければならない。單に運河そのものばかりでなく、同時にその接續地帶をも利用し得ることを要する。言葉を換へて云へば東部地中海と紅海の双方を支配し得るだけイタリーは強力でなければならない。これは英佛聯合勢力に對抗しイタリーのよくなし得るところではない。それればかりではない。自給自足策を確立しようと勇敢な努力をなして居るに拘らず、イタリーは尚ほ大部分輸入品に依存してゐる。一九三五―三六年に適用された中途半端な制裁の下に於てすら、同國はピンチを感じ始めたのであつた。若し効果的な海軍封鎖が行れるやうなことになれば、更に一層悲慘な結果を迅速に招來するであらう。

イタリーの代辯者は、イタリーの航空勢力は海上に於ける弱點を補つて十分に餘りあることを世界に向つて注意を喚記させたがつてゐる。二

年前英國と鍔競合ひをやつてゐるとき、イタリーはマルタを防禦不可能にさせて見ると云つておどした。そして英國の地中海艦隊が一時的にアレキサンドリアに引揚げたのは、右のイタリーの脅しによるのだとーそんなことは全然正しくないのだがーイタリーは未だに信じてゐるのである。イタリーはどうしてもなければならぬとマルタはいふほどの決定的重要性を有するものではないといふ事實を看過してゐるのだ。地中海には他に艦隙が頗る氣樂に行動し得られるやうな實際的で且つ有望な英根據地がある。これらの根據地はイタリーの重爆撃機の行動範圍外にあり、然も地中海水路の唯二つの通路を支配する上に最も理想的な地位に存在してゐる。

抑々、戰時に地中海に於て行動の自由を得ることはイタリーにとつて絶對緊要であるが、同じことが英國にとつても全然當てはまるわけではない。英國が一時でも地中海を引揚げなければならぬことになれば、非

常に不便になるに違ひないが、と云つてもそれだけのことである。長い航海と或る種の供給が一時不足することを我慢すれば、英國は尙ほ喜望峰を經てインドへも極東へも達することが出來る。一九三五―三六年のアビシニアの危機當時、極東方面へ向ふ若干の英國汽船は現に喜望峰を廻つた。從つてこの航路を全部轉換する案が準備されてゐるものと假定しても間違ひではない。序でに、アフリカの東部及び西部海岸に沿ふ他の諸港を擧げるまでもなく、現にケープ・タウンとダーバンに於て實際進行中の大仕掛けの築港及びドック構築計畫に注意を向けるがよい。

英國がイタリーとの戰爭に於て遂行すべき戰略は、大体に於て明白のやうである。英國は毎年一週百萬トン餘の食料品と原料を輸入してゐるそしてこれらの供給の非常に大い部分が地中海から運ばれるものと一般に考へられてゐる。確かに平時に於ては、英國の總輸入の二〇・一パーセントがジブラルタル海峽を通過してゐるが、そのうち一一・四パーセ

ントだけが地中海内に於ける源泉地から來るのであつて、殘る部分はスエズ運河を經て來るのである。從つて地中海の通商路を閉鎖しても、英國からその海外供給總額の九分の一强を奪ふだけのことゝなるだらう。なぜならば、スエズ運河の東方地點から來る貨物は必要とあれば喜望峰を廻つて運ぶことを得るからである。その上、地中海内に始發する一一・四パーセントのうち食料品に當るのは極く少部分である。大部分は棉花、鑛物及び化學製品から成つてゐる。然もこれらの商品の大部分は地中海以外に代るべき供給筋がある。よつて英國商船に對して地中海航路が使用を拒否されたとしても、英國は不便ではあるが、不具になる態のものでないと斷言して憚らないのである。

筆者の見解では、戰爭となつた場合、英國の海軍軍令部は直ちに一恐らく强力な護衞を附する油漕船を除いて一商船に對し地中海全体を以て「行禁止」區域と宣言し、喜望峰を經由するインド及び極東通商路を開

き、斯くして海空兩軍を動員してジブラル　タルースエズ線の軍事的支配を確保する事業に傾倒する可能性が大いにあり得る。目前の水路から商船を遠ざければ、英軍の仕事がどんなに簡易化されるか知れない。ジブラル　タル、マルタ、アレキサンドリア及びサイプラスに堅固な根據地を持つ英國はイタリーの攻撃に對し強力な防禦をなし得る立場にあるばかりでなく、斷乎反撃を加へ得べく、その反撃の性質如何は特に記述するを要しない。よし北海からドイツの牽制があつたとしても、これに對してはフランスが地中海にて、殆んど確定的に英國の積極的な同盟國となるべき事實を擧げなければならぬ。これらの事柄はムソリーニ首相の考慮のなかにも同樣に起り得るのであるから、彼の將來の計畫中には挑戰されずに英國を攻撃ー英國に對する攻撃は疑もなく大英帝國の聯合勢力を敵に廻すことになるのであるーする案が含まれて居るかどうか怪しいのである。

一九三五年の英獨海軍協定が効力を有するかぎり、ドイツの總噸數は英帝國の三五パーセントを超過しないことになつてゐる。次の二つの要素によつてドイツに對して比率が指示してゐるよりも多少高い相對的勢力を與へてゐることは事實だ。

一、ドイツの艦隊は斷然最新の建造に屬し、英國艦隊の現に重荷になつて居り、將來も依然として重荷たるべき艦齡超過艦を一隻も含んで居らない。

二、ドイツはその艦隊を北海及び（或は）バルチック海に集結することも出來るが、これに反して英國は地中海及び極東に常に有力な艦隊を維持して置かなければならず、且つその海軍力の半數以上を自己の水域に置くことを望み得ない。

これらの事實にも拘らず、一九三五年の協定が存續するかぎり、ドイツの海軍はさほど重大な脅威になるとは思はれない。最近ローマ筋から

ドイツが近い將來に於て協定の改訂を企圖するだらうとの示唆があるが、恐らくさう考へてゐることを催促する念願の類ひだらう。

英國の戰略上に於ける一つの「不作地帶」が極東であることは疑を容れない。極東に於ける英國の弱點は、これを手早く補ふことが不可能な程に明白である。一九二二年ワシントン五國條約の調印されたとき、英米兩國の海軍專門家は、その條約の及ぼす軍略的効果について別段錯覺に陷つたわけではなかつた。彼等は十分意識しながら西太平洋の鍵を日本に對して自由な贈物として贈呈したのであるが、日本がその贈物を濫用しないやうに望んだことは疑ふまでもなかつた。この萬一の場合に對する防衞として九國條約が同時に折衝されたのであつた。支那に於ける最近の事件は、この防衞を堅く信じた理想主義者の信念を結局覆すことになつたわけである。

極東に於ける英國の權益は、米國をも加へた西洋のどんな國のそれ

よりも、遙かに莫大である。香港によつて代表される「不動産」を別として、英國は支那に莫大な資本的投資を持つて居り、その喪失は英國にフラフラになるほどの打撃を與へることになるだらう。次ぎに天然資源に富むマラヤ及びボルネオに於ける領土だ。面積が廣大で人口に稀薄なオーストラリアには「持たぬ」列強の飽くなき貪慾を滿すに十分な土地がある。これらの權益及び財產は窮極のところ英國の海軍によつて防禦されなければならない。なぜならばその土地々々の防禦力をもつてしては第一流國の攻撃には十分に立ち向ひ得ないからである。

シンガポールの新海軍根據地が完成するまでは西太平洋に於ける英國の軍略的地位は危險狀態にあつた。同地域のどこにも近代的戰艦を收容すべき一つのドックもなかつた。ドックの設備がないと艦隊は、あらゆる實際的目的のために行動し得なくなる。今日、或は少くとも、極く近い將來に於て、最大級の軍艦三隻が同時にシンガポールのドックに入り得るのである。次ぎはドックを滿す艦船を用意すればよい。現在に於ては歐洲の海上から一隻の主力艦も割愛することを得ない狀態に在るが、海軍計畫の完成するに從つて、新主力艦が古いのに代つて繰出されるから、さうなると古い主力艦を太平洋上に就役させることが出來るやうになるだらう。ロンドンで發表された非公式なニュースによると、クヰーン。エリザベス級の近代化した五隻の戰艦が艤てシンガポールに配置さるべく、さうなつた場合、シンガポールは香港に代つて太平洋艦隊の根據地となるだらうとあつた。戰艦と共に、甲

級巡洋艦の一艦隊、乙級巡洋艦の一艦隊、若干の航空母艦及び適當勢力の驅逐艦及び潛水艦が配備されるであらう。斯くの如く太平洋艦隊が組織されゝば、その勢力は現在の地中海艦隊のそれに匹敵するだらう。萬一、戰爭の危機が迫れば、太平洋艦隊は近代的裝備を有する二甲級巡洋艦及び二乙級巡洋艦を含む濠洲艦隊及びニュージーランド艦隊によつて增强さるべきことは疑を容れない。斯くして新太平洋艦隊は怖るべき組織となり、而してこれは大戰以來始めて、英國をして太平洋に於けるその莫大な權益に對し、やゝ十分に保護を加へ得る底のものとなるのである。

新太平洋艦隊は日本海軍に比べて著しく劣勢にあることは確かだ。けれども時に應じて防禦作戰を遂行するだけの力はある筈である。この艦隊が「生存」してゐる限り――換言すれば毀損されず動員し得る狀態にあるかぎり――日本は太平洋上に於ける英國領域に對し大規

模の渡洋遠征を行ふといふやうな事はあり得ないだらう。故に凡ての場合に於いて、シンガポールに新艦隊が現れることは、マライ、濠洲乃至蘭領東インドに對する所謂日本の脅威を自動的に消滅せしめるだらう。蘭領東インドが現狀を維持する事はオランダ自身にとつてよりも英國にとつて可成り重大な問題である。而して極東に紛爭が起つた場合英艦隊の援助を得べきは頗る確實なことである。極東に於て、大英帝國にとつての唯一の弱點は香港である。日本の猛攻撃に當面して、この地位を保ち得るかどうかは可なり疑問であつて、英國の戰略家中には、日本の攻撃に當面して香港を飽まで確保しようとするのが賢明であるかどうかを問題にしてゐる者もある。遂ひこの間、軍略家が指摘したやうに、香港の窮極の運命は戰爭の結果如何によつて決定さるべく、特記を要することはこの戰爭に於て經濟力が軍備に劣らず重要な役割を勤めるだらうことである。

極東の戰爭に參加の可能性あるロシアに關して一言する必要がある。ウラヂオに夥しい數のソヴイエト潛水艦があるといふ說は割引する必要があるとしても、ロシアが日本の眼の上の疣たる立場に在ることは明白だ。ウラヂオの內外に幾百と數へられ爆撃機が存在することは、單なる噂ばかりでなく證明された事實である。然かも日本の產業中心地の全部ではなくとも、その大部分はその攻撃範圍內に存在してゐる。空軍が戰爭の最期を決し得るかどうかは未だ公然の論爭點となつてゐる。併し日本の人口稠密な諸都市に對して繰返し繰返し爆撃の雨を降らせれば、日本と雖もこれに反撃を加へざるを得ざるべく、その結果、他の地域に於ける日本の勢力を著しく弱めるものと假定するのは合理的だ。ロシアは、直接に、戰爭の初期に於て、日本のアジア大陸との大事な交通路に攻撃を加へ得る唯一の強國である。從つてウラヂオに屯ろするソヴイエトの海空軍力が擊滅されるか、或は相對的に戰ひ得

ない迄になるまでは、日本は他の方面に深入りする自由の立場にないことも確かのやうに思はれる。更に一歩進めて、對ソ戰は日本の軍事關係業者に夥しい稅を課する結果、さらに遠隔の地にある英國領土は云ふに及ばず、日本には香港に遠征する餘力がなくなることを想像されるであらう。次ぎに肝心の交通路の防衛に忙殺される結果、日本の艦隊には積極的作戰に出る機會が殆んどなくなるだらう。これらの考案は、日本は西太平洋に於て壓倒的海軍國ではあつても、その海上勢力は英國及びロシアとの戰爭に當つては必ずしも絕對的ではないことを示唆してゐるのである。

本稿に於いて論ずるは聊かアカデミックの嫌ひなきにしも非ずであるが、米國の干渉の可能性も、全然無視することを得ない。英米の聯合が日本にとつて致命的となるだらうことは、殆んど論議の餘地なき命題である。米國は大西洋岸を裸にする危險なしに、戰鬪力に於て、殆んど日

本の全海軍に匹敵するだけの艦隊を太平洋に集結することが出來る。これに主力艦五隻と補助艦艇とから成る英國の戰鬪艦隊が參加すれば、英米聯合勢力は日本に對し壓倒的優勢を示すであらう。今日の日本は、數年前までのやうに、海軍力の直接の重壓から遠く離れて居るわけではない。一九三四年以來米國は目立たぬやうにハワイとフイリツピン間に所謂戰略的橋梁を構築して來た。同時にアリューシャン群島から日本の領海に達する別通路を測量しつゝある。ミツドウエイ島、ウエーク島、グアム及びダツチ。ハーバー島などの飛石は、一九二二年のワシントン條約前に、これらが持つてゐたすべての重要性を再び取り戻しつゝある。更に米國の手札にはワシントン條約前の計畫たるグアム大海軍根據地の復活案がある。この案は、フイリツピン獨立が既定の事實となつたのちに、米國政府がどんな政策を採用するかに依存するところが多い。米國が比島の保全を保障するやうなことになれば、グアム大海軍根據地の建設が

當然必要になつて來るやうに思はれる。

以上に於て、英人觀察者の目に映じた海軍の戰略を簡單に解說したが、現在の英國海軍再軍備計畫のもつと詳しい說明を加へる事にしよう。專門家には、次の二つの事實が一目瞭然である。卽ち第一は總體の計畫が、英帝國全體の國防上の要求に基く一定の戰略的考察によつて具體化されて居るものであつて、例へば北海といふが如く單一の地域に於て――大戰前に於ける海軍擴張運動の場合のやうに――覇權を確立しようとする考へから出たものではないといふことである。第二に目下建造中の幾十といふ新艦は、いづれも最大の能力を發揮するやうに立案されてゐることである。長いそして複雜な英國海軍史に於て、今囘の建造者ほど一艦一艦の航續力、浮力及び戰鬪力に細心の注意を拂つたことはない。一九三七年に起工された五大戰艦は、いづれも三萬五千噸の標準排水量を有し艦型が統一してゐる。これはいざ

進水となると、各艦の重量が三萬八千噸を超過するということを意味してゐる。これら戰艦の十四吋砲は、記錄の上では外國の近代的戰艦のより強大な武器に比べると劣つてゐるかも知れないが、この新式十四吋砲は快速な發射と猛烈な炸烈力を有し、實際の着彈距離内に於て、縱橫無盡に活動し得るのである。設計者が口徑の大きいのを採らずに、これを採用することによつて總重量に於て約三十パーセントだけセーヴしたのである。この節約の一部分は速力に向けたが大部分は防備裝置に振り當ててゐる。特筆大書するに當らぬ事は素よりだが、英國の新戰艦は沈沒し難い點では現存のどんな浮体或は築造物にも劣らない、或はより沈み難いということは云ひ得るのである。恐らく一九三八―三九年度に起工される次の五軍艦には十六吋砲が搭載される事になるだらう。この新建造と同時に一大近代化計畫が進められてゐる。比較的舊式の五戰艦及び三戰鬪巡洋艦は平均二百萬磅餘の費用を

もつて事實上再建造されてゐる。巡洋艦の全艦隊も同樣に目下再建造中である。大西洋、地中海及び極東に對し十分の艦隊を配備するために、少くとも二十五隻の戰艦を一九四一年までに取り揃へる積りなのである。

特に重要なのは海軍航空隊の集約的大擴張である。目下、總計三百五十機を搭載すべく五隻の航空母艦――二萬二千噸級一隻、他は二萬三千噸級――を建造中である。フユリアス、カレヂアス及びグローリアス等の如き、比較的古い航空母艦は目下近代化されてゐる。斯くして英國海軍はやがて優に五百機を收容する有力な航空母艦十隻を持つ事になるのである。艦隊空軍が有害な二重監督の弊を脫する事を得た今日では、海空兩軍の聯絡は一層容易な仕事となつてゐる。從つて英國の海軍航空兵力が數年ならずして、數に於て米國に一歩を讓るだけで世界第二の大空軍となるだらうと期待してよいのである。

僅か五年前までは、大英帝國は僅か十五隻の大戰後型既成巡洋艦を有するにすぎなかつた。一九四一―四二年までには、近代化され再裝備された十隻の舊式巡洋艦のほかに、この型の軍艦六十隻を就役せしめることになるだらう。外國の巡洋艦建造熱が活潑に復興する場合には、七十隻から成るこの勢力は英國の建造すべき最小限度と看做されるのである。改造計畫の一つの特徴は、七隻の舊式巡洋艦に高射砲だけを搭載させ、防空艦に改裝することである。さらに目下建造中のスループ艦（一般に護衛艦と稱せられるもの）も高射砲だけを搭載するのである。これと同じ關係に於て、新戰艦も新巡洋艦乃至近代化されたものも一切をあげて、非常に強力な遠距離高射砲及び復式機關銃を裝置されるのである。

一九三五年までの年次計畫で（三五年度を含む）、平均千三百五十噸の驅逐艦九隻以上を含むものは一つもなかつた。然るにこゝ二回の

計畫中には、平均千七百三十噸の驅逐艦總計四十隻が規定されてゐる。更に潛水艦の年次割當數は三隻から七隻に增加してゐる。護衛艦、警戒砲艦、水雷驅除艦、及び各型の補助艦艇も大量に建造されてゐる。

この大海軍再軍備運動に於ける驚くべき特徴の一つは、その進行の迅速なこと及び圓滑に行つてゐることである。再軍備に着手されたのは、引續く不況の結果として造船乃至軍事產業界の最も低調で、貧弱な技術家及び熟練工の下に漸く營業を續けて居る時代であつた。斯うした狀態に於て、英國の戰鬪艦隊が法外に遲れずに建造し裝備しおほせやうとは思はれなかつた。よし其れが出來るとしても國家產業の他の部門を攪亂させることになるだらうと觀られてゐた。然るにその不可能視されたことが成功したのだ。遲れるどころか、各型の軍艦が從前の場合よりも遙かに早く建造されてゐる。そして現

在では全體としての計畫が豫定よりも可成り早く進んでゐるのである。鋼鐵の供給及び熟練勞働市場に對して海軍關係が優先權を持つてゐる結果として、別段他の產業が非常に攪亂されて居るわけでもない。急激に訪れた非常時が、英國の支配下にある莫大な經濟及び產業資源を、そしてまたいざと云ふ場合に、これらの資源を動員し且つ之を徹底的に活用し得る國民的天才を再び顯現させてゐるのである。

英國海軍の交通線を調査し且つこれを近代化せんとする仕事は、一九三五！三六年の地中海の危機よりずつと前に着手されたものであるが、この事件によつてその進行が著しく促進された。特に地中海を通る通商路に對する脅威は、アフリカの東部及び西部海岸に沿ふて港灣及びドックの發展を促進した。目下ケープタウンに竣工を急いでゐる大規模の築港計畫については既に述べた。附近にシモンスタウン海軍

根據地があり、聯邦政府はこれを英國海軍の使用に供してゐるのである。けれども、戰時に於て地中海線が商船にとつて危險に陷る虞れがあるかとて、英國はその戰略的支配權をムザムザ他國に渡さうとする考は毛頭ない。十一月三日の議會に於てマルタの防禦施設が猛烈な速さで改善されて居る旨が發表された。海軍省及び航空省の目はサイプラス島に向けられて居るので、こゝにも第一流の空海軍根據地が建設されるものと見て間違ひあるまい。更に次の十二ケ月のあひだに英伊の緊張が見るべきほどの緩和を示さなければ、地中海の海空及び陸の守備兵が更に著しく增强さるべきことは確實である。

結論として英國は冷靜に然も確信を以て將來に對處し得ることは斷言して憚らないだらう。更にまだまだなされなければならぬ點は多いが、英國國防上の最も重大な缺點は、今やすでに補足されてゐる。歐洲に於てすでに壓倒的な英國の防禦力乃至反擊力は、再軍備計畫の完成するに

從つて更に一層その歩武を進めるであらう。この事實を知つたら、英國民のあいだに勃興してゐた事勿れ主義を觀て却つて軍國的傾向を煽つてゐた諸外國の目を醒まさせるやうな結果を齎すかも知れない。最後に私は英國の輿論は米國の海軍力が益々增强されつゝあることを以て世界平和に對する一段の補充的保障を爲すものとしてゐる事實を、感傷的な修辭ではなく、純粹な事實として記錄し得るのは滿足である。

昭和十三年二月一日印刷
昭和十三年二月五日發行

編輯兼發行者　日本國際協會
　　東京市麹町區丸の内二ノ十二
印刷兼發行者　右代表者
　　赤松祐之

748
2